



6年生クリーン大作戦—家庭科の授業から—

6年生は家庭科の授業でクリーン大作戦を実行しました。子どもたちが普段当たり前に行っているそうじを見直し、何のためにそうじをするのかを考え、汚れの種類や汚れ方に応じたそうじの仕方を考え、適切にそうじができるようにすることがねらいです。考えるだけでなく実行、実践することが何よりも大切で、どのクラスも自分の教室と日頃当番で担当している場所を徹底的にきれいにしました。

靴箱掃除を担当しているクラスでは、全校児童の靴箱の天板から順番に靴箱の中や側面などの雑巾がけしをしていました。最初は真新しく真っ白だった雑巾が、「こんなに真っ黒になった」と広げて見せてくれました。

靴箱の中の下靴を一つ一つ中を拭いているとき、低学年児童の靴箱の中に、たくさんのお花が入っているのを見つけて「先生、これはどうしたらいいですか？」と訊ねていました。ひょっとしたら集めているのかもしれませんが。担当の先生が「置いておいてあげて」と答えると「やっぱり」と言うような顔で元に戻している一コマがありました。

全校の皆さん、6年生が家庭科の授業でいつもは手が回らない所まできれいにしていたことに、気が付きましたか？



気になる言葉 ドキリとする言葉

休み時間などに仲の良い子どもどうしの間で交わされる言葉にドキリとすることがあります。どちらかといえば、悪意のないノリの言葉のやり取りであるようですが、「なんでやねん」というようなツツコミの場面で「しね」とか「ころす」とかいった言葉が出てくることがあります。学級懇談会でも、話題になった学級もありました。使っている子どもたちの間では、そうした言葉自体に重い意味はないのかもしれませんが。言っている方も言われた方も特に気にはしていないようにも感じます。

職員室での先生たちとの話では、ゲームの影響があるのかもしれないとのことでした。モンスターなどを退治するときに、そんな言葉をつぶやくことが多いようです。しかし、たとえ姿が見えずとも、少し離れたところからそんな言葉が漏れ聞こえてくると、聞いている側は心穏やかではありません。

現在放映中の大河ドラマ『光る君へ』で主人公の“まひろ”（紫式部）が、「“しぬ”なんて言葉を簡単に使わないで」という場面がありました。その相手の発言は、自分の決意や覚悟を述べるような、まひろを脅すような状況での発言で、決して軽いノリでのものではありません。しかしそれでも、幼少のころ、目の前で藤原道兼に母を理不尽に殺害された（ドラマ上の設定）経験をもつ人物です。自分にとって「しぬ」とか「ころす」という言

ホコウゲツカンの成果かな

中休みと昼休み、廊下を通る子どもたちの様子を見ていると、落ち着いて右側を歩いている子の割合が増えてきたような気がします。もちろん、先に行った友だちに追いつこうと思わず駆けだすこともあるけれど、「走ったら危ないかも」と気づき考えられるといいなと思います。「歩くよ」と子どもどうしで声をかける姿も見られます。児童会の取組で始まった「歩行月間」。「手作り標識」の効果なのか、意識し心がける子が増えたということでしょうか。

意識し、心がける、そしてそれを続けること。続けていくうちに、あたりまえになっていくといいですね。と、書いていると、廊下を走る音が聞こえてきて、「歩きます！」と先生の声が聞こえてきました。

葉がどれだけ辛い体験と結びついている言葉であるのかを相手に伝え論じます。だから、どんな状況でもそんな言葉を簡単に使わないでほしいと。

私たちの発する言葉が相手(周り)のどんな経験と結びつき、どんな受け止め方をされるのか、あらためて考えさせられたドラマのセリフでした。6月の全校朝会では、いじめ防止月間として悪口について話をしました。相手を貶め傷つける悪口だけでなく、日頃何気なく用いている言葉がもたらす周囲への効果や影響、意味についても今一度考えていきたいと感じました。

本当の友達とは？—道徳の学習「ロレンゾの友だち」—

6月26日(水)、校内授業研究会を行いました。5年生の道徳の学習で「ロレンゾの友だち」という物語の前半部分、罪を問われるかもしれないロレンゾの友人3人がどのように関わろうと思うのか話し合う場面から、「自分だったら誰の考え方に近いのか」「友人たちの考え方に共通することは何か」について考え話し合いました。



鹿ノ台小学校
@Ikoma_shika_e2



4年 5,6 時間目は生駒衛生社の方によるごみに関する特別授業。分別の大切さやプラや紙の分別のポイント、日頃心掛けていることなどのお話でした。パッカー車のごみ収集や乗車体験のほか、手際のいい収集作業や間近ではまず見られないパッカー車の仕組みと動きを見ることができて、子ども達は大満足でした。



本当の友達とはどんな友達なのかを深く考える中で、互いに信頼関係をもち、相手のために考えて考え行動することの大切さに気づいてほしいというのが担任の思いです。自分の考えをもち、相手に伝えることは難しいものですが、グループ討議の時には、3人の友人の中から自分だったらどの人物に考え方が近いのか一生懸命に伝える姿やグループのメンバーが言ったことを頷きながら聞く姿、他の子の考えを受けて自分の考えを補足したり、言い直したりする姿がたくさん見られました。「考え議論する道徳」と言われますが、本当の友だちとは？をテーマに議論し分かり合うことを楽しんでいるようでした。



3年生の理科「風の力のはたらき」の実験。送風機の風の強弱で、帆を付けた車の動く距離がどう変わるのかを調べていました。小さい帆に弱い風を当てると30cm程しか進みません。大きな帆で強にすると5mくらいまで進んでいました。はじめは風の当て方も気にしていました。各車3回ずつ計測していました。

クラブ3回目。廊下でボッチャクラブが赤青の球を転がし白球への近さを競い合っていました。「2個の赤が壁を作ってる」「白にぶつけて離してみるか」等作戦を立てて投球。最後の球がぴったり白球にくっついて大逆転なんてことも。囲碁将棋クラブは地域の囲碁クラブの方に今年も手解きを受けていました。

